

副辜丸結核ニ於ケル辜丸ノ組織的變化ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31012

副峯丸結核ニ於ケル峯丸ノ組織的變化ニ就テ

郡山市壽泉堂病院

水 美 登 利

目 次

第一章 緒 論	三、峯丸間細胞ノ状態
第二章 研究材料及研究方法	四、間質結締織ノ變化
第三章 實驗例	五、峯丸ノ結核性結節及夫ノ細精管及間細胞ニ及ボ ス影響
第四章 實驗例總括	六、非結核性副峯丸炎ニ於ケル峯丸變化一例
一、副峯丸結核ノ組織的所見	第五章 結 論
二、峯丸實質ニ於ケル變化	主要文獻

第一章 緒 言

峯丸ガ動物ニ於テ管ニ精糸形成ヲ司ルノミナラズ内分泌上樞要ナル臟器ノ一ナルコト鮮明セラレテヨリ、諸家ノ峯丸ニ關スル研究業績續出シ、今日ニ至ル四十星霜ノ間ニ於テ峯丸ノ病理學的知見ハ著シク廣汎ニワタリ、本邦ニ於テモ峯丸ニ關スル病理學的研究甚ダ多シ。

由來峯丸ハ諸種ノ刺戟ニヨリテ、鋭敏ニ影響セララル臟器ニシテ、諸種ノ疾患、輸精管結紮、精系血管結紮、峯丸移植「レントゲン線或ハ「ラジウム線放射、交感神經切除、熱作用、化學的物質ノ注射、脂肪食餌、峯丸損傷、精系或ハ峯丸乳劑注射、異性生殖腺「ホルモン」注射等ニヨリテ著明ナル組織的變化ヲ招來スルモノナルコト明カトナレリ。然ルニ副峯丸結核症ノ存スル場合峯丸ニ如何ナル變化ヲ惹起スルカニ就キテハ、其ノ報告ハ必ズシモ多シトセズ。本

邦ニ於テハ只石橋氏及ビ坂上氏ノ研究ヲ見ルノミナリ。又最近深瀬氏ハ男性生殖器結核症ノ蔓延ニ關スル實驗的研究中ニ於テ副辜丸ニ結核菌ヲ注入セル際ニ於ケル辜丸ノ變化ニ就テ述ブル所アリ。

余ハ嘗テ金澤醫大婦人科教室ニ於テ女性生殖器結核症ニ就テ些カ研索スル所アリシガ、茲ニ副辜丸結核症ノ辜丸ニ就キテ研索スルノ機會ヲ得タルヲ以テ之ガ組織的研索ヲ企圖セリ。而シテ之ガ組織的變化ヲ觀察スルニ際シ、辜丸ノ「リポイド」ニ關シテ今日未ダ知見ノ充分ナラザルモノアルヲ思ヒ、且又坂上氏ノ研究業績ニ「リポイド」ノ研索ナキニ鑑ミ、余ハ此際特ニ「リポイド」ノ檢索ニ意ヲ用ヒタリ。

第二章 研究方法及研究材料

余ノ研究ニ供セル辜丸ハ凡テ當病院外科ニ於テ、烏海博士ニヨリテ、副辜丸結核症ナル診斷ノ下ニ剔出セラレタルモノニシテ、合計十一例ナリ、此十一例中一例ヲ除ク他ハ何レモ青壯年ノ男子ノモノナリ。此中ニハ貯藏標本ヨリ得タルモノアリテ此等ノモノノ中ニハ年齡不明ナルモノアリト雖モ手術セル烏海博士ノ記憶ニヨレバ何レモ皆青少年ヨリ得タルモノナリト云フ。剔出辜丸ハ之ヲ十%フオルマリン液ニ固定シ、標本作製ニ當リテハ、辜丸ヲ中央部ニ於テ縱斷シ、剖面ヲ精細ニ檢シ異常ヲ認メザリシモノト雖モ成ルベク廣汎ナル切片ヲトリテ之ヲ凍結切片トナシ、「ヘマトキシリン、エオジン」染色、「ズダン」Ⅲ、「ヘマトキシリン」ワシギーソン氏法染色ヲ行ヒテ鏡檢セリ。

第三章 實驗 例

第一例。大〇源〇。二十六歳。
肉眼の所見。

副辜丸尾部ハ拇指頭大ニ腫張シ、内腔ニ乾酪樣物質ヲ充シ、一部ハ陰囊皮下ニ雀卵大ノ膿瘍ヲ形成ス。頭部モヤ、肥厚スルモ剖面ニテハ異常ナシ、辜丸ハ大キサ稍小ニシテ、剖面ニ於テ結節ヲ認メズ。

組織的所見。

副辜丸尾部。

副辜丸管ハ悉ク結核性侵襲ヲ蒙リテ壞死ニ陥リ殘存スルモノナシ。大ナル壞死竈ノ周圍ニハ、結節及圓形細胞浸潤ニテ肥厚セル結締組織及萎縮セル筋層ヲ認ムルコトヲ得ベシ。

睪丸。

睪丸ニ於テハ結核ノ浸潤ヲ証明セザルモ、一ニ淋巴球ノ限局性浸潤存スル部アリ。

實質ハ稍萎縮ノ像ヲ呈シ、細精管ニ於テハ概ネ精系形成ナク、稀ニ變性セル精系ノ管腔内ニ存スルモノアリ。精娘細胞モ變性ニ傾キ、巨態細胞ヲ形成スルモノヲ見ルモ精母、精祖細胞ハ比較的健存シ、其ノ間ニ稍著明ニセルトリー氏細胞核ヲ認ム。細精管固有膜ニ接シテ、單核ノ巨態細胞ノ出現セルモノアリ。細精管内ニ於テ、細胞核ノ周圍ニ少量ノ脂肪ヲ認ム。固有膜ノ肥厚ハ著明ナラズ又固有膜ニハ脂肪ナシ。

間質結締織ノ増殖ナク、一般ニ輕度ノ淋巴性ノ浸潤ヲ認ム。間細胞ハ稍増殖シ、原形質内ニ少量ノ脂肪ヲ含有ス。

第二例。影〇斧〇〇。四十二歳。

肉眼の所見。

副睪丸ハ頭部、體部、尾部共ニ侵サレ、尾部ハ乾酪樣變性ニ陥リ陰囊皮下ニ破潰シテ鷄卵大ノ膿瘍ヲ形成セリ。睪丸ハ萎縮シ大キサ小ニシテ、割面ニ少數ノ結節ノ形成ヲ認メンム。

副睪丸。

副睪丸管ハ殆ンド大部分壞死ニ陥リ、大ナル壞死竈ヲ形成ス。一部ニ於テ、萎縮セル管腔ノ數個殘存スルモノアルモ、其ノ周圍ニ稠密ナル淋巴球ノ浸潤ヲ蒙リ或ハ管腔内ニ滲出物ヲ充滿セリ。結締織及筋層内ニハ多數ノ結節及淋巴球ノ浸潤アリ。

睪丸。

睪丸ニハ散在性ニ肉芽性結節ノ形成アリ。實質ノ萎縮可成高度ニシテ、細胞管内ニ於テ精系形成全ク廢滅シ、精娘、精母細胞モ概ネ消失シ、殘存

スルモノモ變性ノ像ヲ呈セリ。精祖細胞及セルトリー氏細胞ハ殘存スルモ、萎縮高度ナルモノハ細精管内ニハ細胞核ヲ認メズ、肥厚セル固有膜ヲ殘存スルノミナリ。一般ニ結節ノ附近及白膜道下ニ於ケル細精管ハ萎縮高度ナルヲ見ル。細精管内ニ於テ細胞核ノ周圍ニ滴狀ニ多量ノ脂肪ノ存在スルヲ認ム。

間質結締織ハ浸潤セル小圓形細胞核、結締織原細胞核、遊走細胞核ニヨリテ著シク多細胞樣觀ヲ呈ス。

間細胞數ハ稍多數ニシテ、何レモ多量ノ脂肪ヲ含有ス。結節内ニ於テハ間細胞ノ殘存スルヲ見ル能ハザルモ、結節ノ周圍ニ於テハ、稠密ナル淋巴球浸潤中ニ數個殘存スル間細胞核ヲ認メ、脂肪ヲ細胞核ノ周圍ニ証明ス。

第三例。橋〇常〇〇。二十八歳。

肉眼の所見。

副睪丸尾部ハ小指大ニ肥厚シ、割面ニ結節及乾酪樣變性竈ヲ認メ、頭部ハ肉眼的ニ結締織性肥厚ヲ呈ス。睪丸ハ大キサ尋常、割面ニ多數ノ粟粒大ノ結節ヲ認メシムルモ肉眼的ニ乾酪樣變性ヲ營メルモノヲ見ズ。

組織的所見。

副睪丸管ハ大部分結核性侵襲ヲ蒙リテ壞死ニ陥リ消失シ、ワツカ邊縁ノ部ニ浸潤ニヨリテ肥厚セル結締織中ニ萎縮セル副睪丸管ノ殘存スルヲ認ムルモ、管腔内ニハ滲出物ヲ充シ、或ハ將ニ壞死ニ陥ラントスルノ像ヲ呈ス。

睪丸。

睪丸組織ハ多數ノ結節ニヨリテ荒蕪セラレ、實質ノ萎縮高度ニシテ、細精管ノ數少數トナリ其管腔ハ狹少ナリ。結節ハ主トシテ肉芽性結節ナルモ、中央部壞死セルモノモ少數混在セリ。

細精管ニ於テハ精系形成ハ勿論、精娘、精母細胞ヲ認メ難ク、小數ノ

セルトリ―氏細胞及變形セル精祖細胞ヲ認ムルノミニシテ、其ノ間ニ多數ノ遊走細胞、淋巴球ノ存スルナリ。カクノ如キ細精管ニハ少量ノ脂肪ヲ認ム。變性セントスル結節ニハ少量ノ脂肪出現シ、或ハ巨態細胞ノ原形質中ニモ脂肪ヲ認ムルモノアリ。

間細胞ハ其ノ數至テ少ク、殘存スルモノモ、概ネ核ノ形態的變化ヲ來シ、其ノ核ノ周圍ニ中等量ノ脂肪ヲ有ス。而シテ、此ノ部ニ於ケル遊走細胞ヲ有スルモノ多シ。結節中及ビ浸潤ノ高度ナル部分ニ於テハ間細胞ハ認ムルコト能ハザルモ、脂肪ノ存在ニヨリテ間細胞ノ痕跡ヲ窺ハシムルモノアリ。

第四例。坂〇正〇〇。二歳。

肉眼の所見。

副辜丸尾部腫張シ、多量ノ乾酪樣物質ヲ包藏シ、陰囊皮下ニ膿瘍ヲ形成セリ。辜丸ニハ異常ナシ。

組織の所見。

副辜丸尾部。

第一例ト同様ナリ。

副辜丸頭部。

副辜丸頭部ニ於テモ、管ハ凡テ結核性浸潤ニヨリテ消失シ健存スルモノナシ。結節ハ未ダ乾酪樣變性セルモノヲ認メズ。

辜丸。

辜丸ニ於テハ結核性變化ヲ認メズ。細精管ハ未ダ管腔ヲ形成セズ。細精管上皮ニハ異常ナク、細精管内ニ微量ノ脂肪ヲ証スルモノアリ。間質結締織ニ於テモ亦顯著ナル異常ヲ認メズ。間細胞ハ少數ニ存シ、少量ノ脂肪ヲ有ス。

第五例。不詳。

原著 水〇副辜丸結核ニ於ケル辜丸ノ組織的變化ニ就テ

肉眼の所見。

副辜丸頭部ニハ顯著ナル變化ナク、纒カニ結締織性肥厚ヲ呈セリ。尾部ハ全ク乾酪樣變性ヲ營ミ陰囊皮下ニ鶏卵大ノ膿瘍ヲ形成セリ。辜丸ハ萎縮シ小ニシテ、剖面ハ異常ナシ。

組織の所見。

副辜丸。

第一例ニ同シ。

辜丸。

副辜丸及辜丸ノ境界部及白膜ニ於テ、其ノ結締織間ニ多數ノ結節及淋巴球ノ浸潤アリ。辜丸組織ニ於テハ白膜直下ニ小數ノ小結節ヲ認ム。

辜丸實質ハ一般ニ萎縮シ、殊ニ結節ノ存在スル附近ニ著シ。細精管ノ精糸形成ハ全ク廢滅シ、精祖細胞認メ難ク精母細胞ハ殘存スルモノト雖モ、概ネ變性ノ傾向ヲ示セリ。セルトリ―氏細胞ハ其ク殘存シ、反テ増殖ノ傾向ヲ示スモノアリ。精祖細胞ハ明カニ殘存スルヲ認ムルモ單核ノ巨態ナル細胞トナレルモノアリ。

結節ノ附近ニ於テハ間質ノ結締織増殖シ、多數ノ淋巴球ノ浸潤アリ、細精管ハ著シク萎小トナリ、内腔ニハ、淡明ナル一核ト其ノ中ニ核小體ヲ有スルセルトリ―氏細胞ノ一二列ト淋巴球ノ浸潤ヲ有ス。コノ間質ノ結締織細胞ノ増殖ト浸潤著明ナル部分ニ於テハ間細胞ハ多クハ變性シ或ハ變形シ其ノ形態明瞭ナラザルモ、脂肪染色ニヨリテ核ノ周圍ニ脂肪ヲ証明スルガ故ニ小數殘存スルヲ目撃スルヲ得ベシ。他ノ結核性變化ナキ部ニ於テハ間細胞ハ多數ノ群集ヲツクリテ存シ之テ増殖スルヲ認メラル。細精管内ニハ何レモ小量或ハ中等量ノ脂肪ヲ認メ得ルモ間細胞ノ脂肪ニ比スレバ少量ナリ。

第六例。小〇巳〇〇。三十歳。

原著 水 II 副睪丸結核ニ於ケル睪丸ノ組織的變化ニ就テ

肉眼の所見。

副睪丸ハ頭部、體部、尾部共ニ侵サレ、尾部ハ乾酪樣變性ニ陥リ、破潰シテ、陰囊ニ漏孔ヲ形成セリ。睪丸ハ萎縮シ、形不正、大キサ小ニシテ、剖面ニハ異常ヲ認メズ。

組織的所見。

副睪丸。

副睪丸管ノ半数ハ結核性變化ノ侵襲ヲ蒙リテ其ノ造構認メ難ク、或ハ多數融合シテ、壞死ニ陥レルモノアリ。

殘存セル管腔モ概ネ管腔周圍ニ濃厚ナル淋巴球ノ浸潤或ハ結節形成ヲ認メラル。而シテ管腔上皮ハ丈低キ圓柱狀或ハ骰子形ヲ呈シ、黃褐色ノ色素ヲ有スルモノ多シ。

睪丸。

睪丸組織ニハ結核性變化ヲ認メズ。最も著明ナル變化ハ實質ノ萎縮ト間細胞ノ高度ノ増殖ナリ。

細精管ハ甚ダ萎小ニシテ、固有膜肥厚、上皮ハ小數ノセルトリ―氏細胞ト極メテ稀ニ殘存スル精祖細胞ニノミヨリナリ他ノ細胞ハ悉ク消失シ、恰モ腎臟細尿管ヲ見ルガ如シ。此細精管内ニハ多量ノ脂肪ヲ証明ス。

間細胞ハ十數個ヨリ數十個以上ニ達スル群團ヲツクリテ存在シ、原形質内ニ黃褐色ノ色素ヲ有スルモノアリ。一般ニ間細胞ノ核分割像ハ認メラズ。脂肪ハ之ヲ中等量ニ原形質内ニ保有セリ。

間質結締組織細胞ハ増殖著明ナラズ、所々ニ淋巴球ノ限局性ノ浸潤及間質内ノ水腫ヲ証明ス。

第七例。不詳。

肉眼の所見。

副睪丸尾部ハ指頭大ニ肥厚シ、剖面ニ結節ヲ認トメシム。頭部モ稍肥厚

スルモ、剖面ニ異常ナシ。睪丸ハ形態尋常大キサ小ニシテ、剖面ニハ異常ナシ。

組織的所見。

本例ノ副睪丸ノ變化前數例ニ比シテ、比較的輕度ニシテ、副睪丸管ハ大部分殘存ス。然レドモ間質及筋纖維間ノ圓形細胞浸潤ハ可成濃稠ニシテ、所々ニ限局性ノ集團ヲ形成ス。結節ハ少クシテ、一標本ニ於テ一ヶ所ニ於テノミ乾酪樣變性ニ陥レル結核竈ヲ認ム。管腔上皮ハ其ク健存スルモ、淋巴球ノ浸潤ノ強キモノハ、上皮ノ排列不整ニシテ、退化變性ニ陥レルモノ見ル。管腔内ニハ淋巴球、壞死セル上皮ヲ認ムルモノ多シ。

睪丸。

睪丸組織ニ於テ、結核性變化ヲ認メズ。細精管ニ於テハ、精糸ノ形成ハ稍不良ナルモ尙明カニ認メ得ラル、精娘、精母、精祖細胞ニモ著明ナル變化ヲ認メズ。セルトリ―氏細胞ノ増殖ナシ。細精管ニ於ケル脂肪ハ手トシテ細精管固有膜ニ接シテ存在シ、其ノ量稍多シ。

間質結締組織ノ増殖ナク、細胞浸潤ヲ認メズ。間細胞モ亦増殖セズ、一般ニ少量ノ脂肪ヲ含有セリ。

第八例。不詳。

肉眼の所見。

副睪丸ハ、頭部、體部、尾部共ニ侵サレ、尾部ハ乾酪樣變性ニ陥リテ、陰囊皮下ニ鳩卵大ノ膿瘍ヲ形成セリ。頭部及體部モ乾酪樣變性傾向ヲ示セリ。睪丸大キサ小ニシテ、剖面ニハ小數ノ粟粒大ノ結節ノ散在セルヲ認ム。

組織的所見。

副睪丸。

副睪丸間質内ニ多數ノ肉芽性結節及中央部壞死セル結節存在シ、副睪丸

管ハ結節ノ壓迫ニヨリテ、萎縮シ、數個相集リテオシヤラレタルガ如キ觀ヲ呈ス。管腔上皮ハ丈ヒクキ圓柱狀或ハ骰子形ヲ呈シ、原形質内ニ黃褐色素ヲ有スルモノアリ。

辜丸。

辜丸白膜ノ直下ニ數個ノ結節ヲ認メ、結節附近ノ實質ノ萎縮ハ甚著明ナルモ、結節形成ナキ部分ノ實質ノ萎縮ハ比較的輕度ナリ、即結節附近及白膜直下ニ於ケル細精管ハ固有膜肥厚シ、細精管萎小シ、細精管ノ造精細胞ハ消失シ、僅カニセルトリ―氏細胞ノ變形セルモノヲ殘存セリ、カクノ如キ細精管ニハ多量ノ脂肪出現ス。間細胞ハ一般ニ多數群集のニ存在シ、黃褐色ノ色素ヲ含ムモノ多ク、脂肪ヲ中等量ニ含有ス。實質萎縮ノ高度ナル部分ニ伴ヒテ、間細胞モ其ノ數ニ減少シ、又退行變性ニ陥ラントスル傾向ヲ示セリ。

間質ニハ水腫ノ形成アリ。

第九例。不許。

肉眼の所見。

副辜丸頭部尾部共ニ拇指大ニ腫張シ、剖面ニハ乾酪樣物質ヲ包藏セリ。辜丸形態不正、大キサ稍大ニシテ、剖面ニ於テ多數ノ粟粒大乃至米粒大ノ結節ノ散在スルヲ認メシム。

組織の所見。

副辜丸。

實副辜丸實質ハ悉ク乾酪樣變性ニ陥リ、管ノ殘存スルモノナク副辜丸ノ造構ハ全ク之ヲ認ムルコト能ハズ。

辜丸。

辜丸組織ニ於テ、多數ノ肉芽性結節及限局性圓形細胞浸潤アリ。辜丸實質ノ萎縮高度ニシテ、細精管固有膜肥厚シ、細精管上皮ハセルトリ―氏細

原著 水ニ副辜丸結核ニ於ケル辜丸ノ組織的變化ニ就テ

胞ヲ殘シテ消失シ、或ハ全ク上皮ヲ有セザル管トシテ存スルモノ多數アリ。

輕度ナルモノト雖モ、精系形成ハ全ク頽廢シ、精娘細胞モ變性消失シ、少數ノ精母、精祖細胞、セルトリ―氏細胞ノミヲ殘存セリ。變性高度ナルモノニ於テハ變性輕度ナル細精管ヨリモ一般ニ多量ノ脂肪ヲ出現ス。

間細胞ノ數ハ稍少ク、脂肪ノ含量モ亦少シ。

間質ニハ輕度ノ水腫ヲ認ム。

第十例。遠○安。二十二歳。

肉眼の所見。

副辜丸尾部ハ全ク乾酪樣變性ニ陥リ陰囊皮下ニ鶏卵大ノ膿瘍ヲ形成シ、頭部モ亦侵サレ肥厚セリ。辜丸ハ形態及大キサ共ニ尋常、剖面ニ結節ヲ認メズ。

組織の所見。

副辜丸。

前例ニ同シ。

辜丸。

辜丸ニハ結核性變性ヲ認メズ。實質ノ萎縮ハ稍高度ニシテ、細精管固有膜ヤ、肥厚シ、精系形成全クナク、精娘細胞認メ難シ。精母細胞ノ數モ至テ稀ニシテ、精祖細胞ハ長ク殘存セリ。セルトリ―氏細胞ハ反テ増殖ノ態度ヲ示セリ。脂肪ハ一般ニ細精管ニハ少量ナリ。

間細胞ノ數モ少クシテ、所々ニ數ケノ群集ヲツクリテ存在シ、多量ノ脂肪ヲ含有ス。

間質ハ水腫ヲ來シ疎解セリ其他顯著ナル變化ヲ認メズ。

第四章 所見總括

一、副辜丸ニ於ケル變化

副辜丸ニ結核性病變ノ來ル際ニ其ノ最初ニ侵サルルハ副辜丸尾部ナルコトハ周知ノ事ナリ。余ノ例ニ於テ、病變ノ尾部ノミニ止マレルモノハ第一、三、四、五、七、ノ五例ニシテ、尾部、體部、頭部共ニ侵サレタルハ、第二、六、八、九、十、ノ五例ナリ。病變ノ頭部ノミニ存セルモノハ一例モ無カリキ。

是等ノモノニ就テ、組織的研索ヲ行フニ第七、八例ヲ除ク外ハ副辜丸尾部ノ副辜丸管ハ結核性病變ノタメニ殆んど潰滅セラレ殘存セルモノヲ認メ難ク、精子ノ輸送ハ全ク不可能ナルヲ思ハシム。

副辜丸ノ結核ニ侵サルルヤ、副辜丸管ノ周圍ニ於テ、一樣ニ濃厚稠密ナル淋巴球ノ浸潤並ニ結節形成ヲ來シ、副辜丸管ハ速カニ壞死ニ陥リ、近接ノモノト漸次融合シテ、大ナル壞死竈ヲ形成ス。組織的病變ノカクノ如ク急激ナラザルモノニ於テハ、間質結締織ニ於テ小數ノ結節ヲ形成シ、漸次副辜丸管ヲ壓迫シ、副辜丸管ハ萎小シ、オシヤラレタルガ如ク邊緣ノ部ニ於テ殘存スルヲ認ム。而シテ此等ノ結節モ又早晚榮養障礙ニ陥リテ變性シ、壞死竈ヲ形成スルモ、副辜丸管ハ萎縮セルママニ周邊ノ部ニ於テ殘存シ、比較的精子ノ輸送障礙ヲ來スコト尠キガ如シ。結核性結節ノ形成アル附近ノ副辜丸管ノ状態ヲ觀察スルニ、副辜丸管ハ萎縮シ、狭小トナリ、管腔上皮ハ丈ヒクキ圓柱狀、或ハ骰子形ヲ呈シ、隣接細胞トノ境界ハ多クハ明瞭ナラズ。而シテ核ハ染色不良ニシテ上皮間、管腔中ニ細胞浸潤アリ。余ノ例ニ於テ、萎縮セル管腔ノ上皮ノ黃褐色色素ヲ有スルモノ二例アリ(第六、八例)。而シテ此等ノ二例ハ辜丸間細胞ニ於テモ、同様ナル色素ヲ含有シタリ。

二、辜丸實質ニ於ケル變化

一、精子及ビ各種精細胞。

精子形成ハ殆ンド全例ニ於テ頽廢消失シ、第七例ニ於テノミ精子形成ハ不良ナルモ尙殘存スルヲ認メタリ。精子ニ次イテ變性ノ速カナルハ精娘細胞ニシテ、變性ノ初期ニ於テハ其ノ細精管内ノ排列不規則トナリ、或ハ管腔中ニ多數蝟集シテ遂ニ巨態細胞ヲ形成スルモノアリ。此巨態細胞ハ多核ニシテ精娘細胞ノ二三倍ヨリ數倍ニ達スル胞體ヲ有ス。變性更ニ進メバ精娘細胞ハ核ノ崩壞ヲ來シテ消失シ、胞體ハ不染色性ノ雲狀物質トナリテ管腔中ニ存在スルモ、遂ニ吸收セラレ、管腔ハ清淨トナル。然ルモノニ於テハ精母細胞モ亦多クハ退行變性シ、精母細胞核ハ周圍ヨリ侵蝕狀ニ崩壞シ、細精管内ノ精母細胞ノ數甚シク減少ス。

精祖細胞ハ造精細胞中最モ抵抗強ク、細精管内ニ於テ他ノ造精細胞ノ全ク變性消失スルニ至ルモ尙セルトリー氏細胞ト共ニ萎小セル細精管内ニ殘存スルヲ認ムルコト多シ。然レドモ時ニ細精管ノ萎縮ノ初期ヨリ精祖細胞核ハ膨大シ強ク「ヘマトキシリン」ニ染色シ、原形質モ亦核ノ周圍ニ明暈ヲ現出シ、巨大ナル細胞ト化スルモノアリ。

而シテ萎縮最モ高度ナル細精管ニ於テハ、細精管内ノ造精細胞ハ全ク消失シ、變形セルセルトリー氏細胞ノミ殘存スルモノアリ。

斯クノ如キ細精管ノ萎縮、造精細胞ノ變性ニ隨ヒテ細精管内ニハ多量ノ脂肪ノ出現スルヲ認メラルモノナリ。桐澤氏ニヨレバ細精管内ノ脂肪ハ健常ナルモノニ於テハセルトリー氏細胞ニ存シ、殊ニ其ノ固有膜ニ接スル足板ニ多量ニシテ、細精管ニ於テ所謂周縁排列ヲナスト云フ。然レドモ余ハ變性セル細精管内ニ於テハ、變性セル上皮細胞核、セルトリー氏細胞核ノ附近ニ之ヲ甚ダ多量ニ證明シタリ。而シテ固有膜附近ニ之ヲ多量ニ見タルモノナキニ非ズト雖モ多クハ精娘、精母、セルトリー氏細胞核ノ存在スル部位ニ多量ナルヲ認メタリ。一般ニ細精管上皮ノ變性著明ナルホド多量ノ脂肪ヲ證明スルガ如シト雖モ、細精管萎縮ノ程度ト脂肪量トハ必ズシモ平行スルモノニ非ザルガ如シ。是等ノ關係ハ造精細胞ノ變性ノミナラズ、セルトリー氏細胞ノ増殖或ハ變性トモ關係アルモノナラント思惟セラル。

二、セルトリー氏細胞。

原著 水Ⅱ副睪丸結核ニ於ケル睪丸ノ組織的變化ニ就テ

細精管内ニ於テ、各種ノ精細胞ノ變性シ、其ノ數ヲ減少スルト共ニ、セルトリー氏細胞核ハ明瞭ニ認めラルルニ至リ、細精管ノ萎縮甚シク高度ナラザル限りニ於テハ反テセルトリー氏細胞ノ増殖ヲ來セルモノアリ（第二、三、五、十例ノ如シ）。然レドモ細精管ノ甚シキ萎縮ヲ來スニ及ビテハ造精細胞ノ消失ト共ニ、セ氏細胞ハ減少シ、多クハ形態的變化ヲ來シ、細胞個々ノ境界明カナラズ、核ハ卵圓形、或ハ圓形トナリ、「クロマチン」ニ乏シク淡明ニ染色ス。カカル變化ハ多クハ結節ニ近接シ高度ノ萎縮ヲ來セル細精管ニ認めラレ、變性セルセ氏細胞ハ多量ノ脂肪ヲ有セリ。即チ細精管上皮細胞ニテハセ氏細胞抵抗最モ強シト雖モ遂ニハ又變性消失シテ、細精管ハ只肥厚セル固有膜ノミ殘存スルニ至ルモノナリ。カカル細精管内ニ於テハ遊離ノ脂肪ヲ證明スルコトナシ。

三、細精管固有膜。

細精管固有膜ハ細精管ノ萎縮ノ甚シカラザルモノニ於テハ畧正常ノ狀ヲ認めシムルモ、細精管上皮ノ變性著シキ例ニ於テハ恒ニ多少其ノ肥厚スルヲ認めシム。殊ニ峯丸ニ結節ノ形成アル場合ニ於テハ、結節附近ノ細精管ハ著明ニ萎小スルト共ニ、固有膜及ビ固有膜外層ノ結締織ノ増殖ヲ認めラル。細精管上皮細胞ノ全ク消失セルガ如キ高度ノ細精管ノ萎縮ニ於テハ殆ンド毎常固有膜ノ硝子様ノ肥厚存在セリ。一般ニ峯丸ニ結節形成ノアル場合或ハ間質ニ細胞浸潤著明ナル場合ニ於テモ、是等ノ炎症性病變ハ固有膜ヲ越ヘテ、細精管内ニ進行スルコトハ稀ナルヲ認めベシ。而シテ斯クノ如キ種々ナル病變ニ於ケル固有膜ハ脂肪ヲ證明スルコト殆ンド稀ナリ。

四、峯丸實質變化ノ總括及ビ考察。

峯丸實質ノ萎縮ハ生理的ニハ、老年ニ至リテ發現スル外、實驗的ニハ峯丸ノ内分泌研究ノ目的ニ於テ多數ノ人ニヨリテ研究セラレタル所ニシテ、専ラ諸種ノ刺激ヲ峯丸ニ作用セシメテ峯丸ノ萎縮ヲ招來セシム。即チ「レントゲン線放射、輸精管結紮、化學的物質注射、生殖腺「ホルモン」注射、寒熱性刺激、峯丸損傷、細菌毒素注射等ノ場合ニ於ケル峯丸ノ變化或ハ其ノ實質萎縮ノ狀態ハ原因ニヨリテ各多少ノ相違ノ存スル所ナリ。

余ノ研索セル副辜丸結核症ニ於ケル辜丸實質萎縮ノ状態ハ畧輸精管結紮及ビ結核性疾患ニヨリテ死セル人ノ辜丸實質萎縮ノ状態ト同様ナルヲ認メタリ。

即チスタイナツハ氏ニヨル輸精管結紮ニヨリテ、細精管内上皮細胞ハ退行變性シ、細精管ノ萎縮ヲ來ス事實ハ周知ノコトニシテ、更ニ藤田氏ノスタイナツハ氏ノ實驗追試ニヨレバ、輸精管結紮ニヨリテ術後早キハ二十四時間ヨリ細精管上皮ノ變性起リ一、二ヶ月ニ及ビ、細精管内ノ細胞ハ主トシテ、中心部ヨリ變性シ、多數ノ巨態細胞出現シ終ニハ細胞死滅消失スルモノ多ク、此際精系ハ比較的抵抗弱ク精祖細胞、セルトリ―氏細胞ハ最も抵抗強ク、變性ノ最も高度ナルモノニ於テモ尙一部ハ殘存ス。而シテ術後三ヶ月頃ヨリ細精管内上皮ノ再生初マルモ、顯著ナルニ至ラズシテ、其後五、六ヶ月以後ヨリ再ビ造精作用ノ廢滅ヲ見ルト云フ。

本田氏ニヨレバ、結核症屍ノ辜丸ニ於テハ、實質萎縮シ多クハ精子形成頽敗シ、造精細胞中精娘細胞抵抗弱ク、變性ニ際シテ巨態細胞ヲ形成スルコトアリ、精祖細胞ハ最も抵抗強ク、セルトリ―氏細胞ハ精系及ビ造精細胞ノ變性ト逆比例シテ増殖肥大ヲ來ス、而シテセ氏細胞ノ機能ニツキテ、氏ハ細精管内ニ於ケル清淨作用ヲ營爲スルモノナラント云ヘリ。

細精管上皮ノ變性初期ニ於テ多核巨態細胞ノ出現スルコトハ夙ニ知ラレタル事實ニシテ、結核症屍辜丸(大家、本田)、損傷辜丸(Sanfelic, Maximow、鹽澤)、輸精管結紮(藤田)、デフラリ―菌注射(萩原氏)ニ各認メラレタリ。余ノ例ニ於テモ亦此巨態細胞ヲ認メタルコト前ニ記セルガ如シ、余ハ此巨態細胞ヲ以テ大家、本田氏ト同様精娘細胞ノ融合ニヨリテ形成セララルモノナリト信ズ。又細精管上皮變性ノ際ニ精祖細胞膨化シテ單核ノ巨態ナル細胞トナルコトアルハ前述セルガ如シ。

セルトリ―氏細胞ニ就キテハ、細精管ノ造精細胞ノ變性消失スル際ニ本細胞ハ良ク殘存シ、細精管萎縮ノ甚シク高度ナラザル限リニ於テハ本細胞ノ反テ増殖スルコトアルハ余モ亦注目セル所ナリ。由來セルトリ―氏細胞ノ機能ニ就

キテハ種々ノ推測ノ有スル所ニシテ、細精管造精作用ノ場合ニ其ノ榮養供給機關ナリトナスモノ多シト雖モ、余ノ所見ヲ以テスレバ、各造精細胞ノ變性ノ顯著ナル際ニ反テ些カノ増殖スルモノアリ、又細精管ノ萎縮高度ニシテ、造精細胞ノ消失スルニ及ビテモ尙、セ氏細胞ノ變形セルモノノ固有膜ニ附着セル狀ヲ認ムルコトアリ、故ニ此細胞ハ精細胞ノ榮養供給細胞ナリトノミハ信ジ難キトコロニシテ本田氏ノ言フガ如ク細精管内ノ清淨作用ヲモ營爲スルモノニ非ザルナキカ。

副睾丸結核症ノ存在ニヨリテ來ル睾丸實質ノ萎縮ハ、睾丸ニ結核性病變ノ存在スル場合ニ於テハ、夫レニ起因スルコト重大ナルハ明カナルモ、睾丸ニ結核性病變ノナキ場合ニ於テハ、輸精路ノ通過障礙ニヨル細精管上皮ノ變性ト、結核菌毒素自身ト結核菌毒素ニヨル全身ノ消耗トノ二因子ニ歸スベキモノナリトス。坂上氏ハ睾丸ニ結核性病變ナキモノニ於テハ、實質ノ萎縮ハ中等度ヲ越ヘズト云ヘリ。余モ第六例ヲ除キテハ氏ノ言ニ賛意ヲ表スルモノニシテ細精管上皮ノ全ク消失スルガ如キ高度ナルハ常ニ結節ノ形成アル睾丸ニ認ムルモノナリ。而シテ結核性變化ノ睾丸ニ無キ場合ニ於テハ、副睾丸ノ副睾丸管ノ殘存スルカ否カハ睾丸實質ノ萎縮ト密接ナル關係ノ存在スルコトヲ認メ得タリ。

三、睾丸間細胞ノ狀態

睾丸間細胞ハ一八五〇年ライジツヒ氏ニヨリテ記載セラレタル細胞ニシテ、睾丸間質ニ小集團狀ニ存在ス。而シテ本細胞ハ動物種類、年齢、發情期、其他諸種ノ要約ニヨリテ其ノ數量ニ差アリ。

本細胞ノ機能ニツキテハ、スタイナツハ氏一派ノ學者ハ睾丸内分泌ヲ司ルモノニシテ、第二次性徵、性慾維持ニ關與ストナシ、之ヲ青春腺ト名ヅケタリ。然レドモ其後多數ノ學者ハ此間細胞ニ關スル研究ニ努メ、睾丸ノ内分泌作用ハ間細胞ニノミ歸スベカラザルコトノ多クノ反證ヲ發見シ、今日ニ於テハ漸次、スタイナツハ氏學說ノ否定ニ傾キツツアルハ周知ノ事ナリ。

間細胞ハ諸種ノ原因ニヨル睾丸實質萎縮ノ際ニ増殖スルコトアリ。即チスタイナツハ氏ノ輸精管結紮ニヨリテ起ル

辜丸實質萎縮ノ或時期ニ於テ(スタイナツハ、藤田)、或ハ慢性酒精中毒ノ場合(ワイキゼルbaum)、或ハ「レントゲン放射(ベルゴニー、トリボンシユ、山川、和田、福井)、或ハ惡液質性疾患例(バ、肺結核症、癩腫(ベルグライヒ、ヤツフェ、コルデス、ハンゼマン)、本田)ノ場合ニ間細胞ノ増殖アリト云フ。本田氏ハ結核性疾患ニヨリテ死亡セルモノノ辜丸ヲ檢シ、之ニ間細胞ノ増殖アルモノ、ナキモノ、退行變性スルモノ等種々ニシテ、一樣ナラザルコトヲ記載セリ。要之スルニ本細胞ノ機能ハ未ダ鮮明セラレズ幾多ノ疑點ヲ存ス。

副辜丸結核症ノ場合ニ於ケル辜丸間細胞ノ状態ニ就キテハ、坂上氏ハ副辜丸ノ侵サレタル部位及ビ辜丸ニ結核性浸潤ノ有無ニヨリテ多少ノ相異ハアルモ、概シテ間細胞ノ増殖ヲ來シ、或程度マデハ實質ノ萎縮ト間細胞ノ増殖ノ平行スルヲ認ムルモ、辜丸ニ高度ノ結核性變化ノ存スル場合ニ於テハ實質ノ高度ノ萎縮ニ伴ヒテ間細胞ノ退行變性ニ陥ルヲ認メ概シテ其ノ形態ヲ認ムルコト能ハズト云フ。

余ノ實驗例ニ於テ、辜丸實質ノ高度ノ萎縮ト共ニ間細胞ノ汎發的ニ著シク増殖シ恰モ腫瘍ノ如キ所見ヲ呈セルモノ一例(實驗例第六例)ヲ見タリ。本例ニアリテハ細精管ハ全般ニ亘リテ高度ノ萎縮ニ陥レリ。間細胞ノ數尋常ヨリ多シト思ハルルモノハ第一、二、五、八例ニシテ、畧尋常ナルモノハ第四、七、十例、間細胞ノ少數ナルモノハ第二、九例ナリ。

而シテ第三、九例ハ辜丸ニ結節形成アルモノニシテ、辜丸組織ノ著シク荒蕪セラレタルモノナリ。一般ニ辜丸ニ於テ結核性結節ノ形成アル場合ニ結節内ニハ間細胞ノ殘存スルモノナク、結節ノ周圍或ハ淋巴球ノ浸潤高度ナル部ニ於ケル間細胞ハ其ノ形態的變化ヲ來シ、核モ正常ノ如ク圓形泡狀ヲ呈セズ、少數相集リテ殘存シ、脂肪染色ニヨリテ、變形セル核ノ周圍ニ微滴狀ニ脂肪ヲ現出スルヲ以テ間細胞ノ殘骸ヲ認メシムルニ至ル。

辜丸ニ結核性變化ヲ證セザルモノニ於テハ、概シテ實質ノ萎縮ニ伴ヒテ間細胞ノ増殖ヲ認ムルコト多ク、最モ高度ナルモノヲ余ハ第六例ニ於テ認メタリ。

結核性病變ノ辜丸ニ存スル場合ニ於テ、其ノ結節形成ノ少數ナルモノニテハ、結節附近ノ間細胞ハ上述ノ所見ニ類スルモ、變化ノ認めラザル部分ニテハ間細胞ハ正常ナルカ、或ハ反テ増殖スルモノアリ。

間細胞内ニ含有セララル、脂肪ニ就キテハ、年齢的ニ其ノ量及ビ質ニ差異ノ存スルモノニシテ、本細胞ノ機能ト共ニ此脂肪ノ意義ニ就キテモ種々論議セララル所ナリ。

余ガ實驗例ニ就キテ間細胞内脂肪ヲ檢索スルニ、間細胞内ニハ多少ノ量の相違ハアルモ、何レノ例ニ於テモ脂肪ヲ證明シ、此脂肪ノ量ハ細精管ノ變性程度及ビ細精管内脂肪トノ間ニ密接ナル關係ヲ認め難シ。

間細胞内ニ存スル黃褐色ノ色素ハ余ハ之ヲ二例ニ認めタリ。而シテ此色素ヲ有スル間細胞内脂肪ハ他ノモノニ比シテ稍多量ナルヲ覺ユ。更ニ間細胞ニ此色素ヲ含有セル辜丸ハ其ノ副辜丸管上皮ニモ本色素ト同様ナル色素ヲ含有スルモノナルコトハ前述セリ。

四、間質結締織ノ狀態

辜丸間質組織ニ於テ結核性病變ヲ認めタルハ十例中五例ニシテ、第二、三、五、八、九例ナリ。是等ノモノハ何レモ其ノ病變ハ副辜丸ヨリ連續的ニ辜丸白膜ヲ破壊シテ辜丸組織ヲ侵シタルモノニ非ズシテ、淋巴系路或ハ血行ニヨリテ傳播セラレタルモノナリ。而シテ辜丸組織内ニ散在性ニ粟粒大ノ結節ヲ生ジ、漸次變性シ壞死籠ヲ形成ス。結節部以外ニ於テモ是等ノ例ニ於テハ間質内ニ淋巴球及ビ遊走細胞、組織球ノ浸潤アリ。組織球ニ脂肪ヲ有スルモノアリ。又結締織細胞ニ於テモ脂肪ヲ有スルヲ認めルコトアリ。

辜丸ニ結節形成ナキ例ニ於テモ、間質内ニ輕度ノ瀰蔓性或ハ限局性ノ淋巴球ノ存在ヲ認めルモノアリ。

余ハ二例ノ結節ヲ有スル辜丸組織ノ白膜下ノ一部分ニ於テ限局性ニ著シク間質ノ結締織細胞ガ増殖シ、間細胞ヲ殆ンド認めズ、實質ノ萎縮ノ高度ナルモ、此部ニ於テハ結節ノ如キヲ認めザルモノヲ見タリ。是ハ恐ラク此部ノ何等カノ原因ニヨル榮養障碍ノタメニ起レル現象ナランカト思惟ス。

五、結核性結節ノ狀態及ビ結節ノ細精管及ビ間細胞ニ及ボス影響

辜丸ニ結核性結節ヲ形成スル場合ニ其ノ傳播系路ハ余ノ例ニ於テハ悉ク淋巴系路或ハ血行ニヨルモノト解セララルガ故ニ結節ハ間質内ニ散在性ニ形成セラレ、初メヨリ細精管内ニ肉芽組織ヲ形成セシモノハ殆ンド之ヲ認メズ。細精管内ニ結締織細胞、遊走細胞、淋巴球ノ浸潤ヲ證スルモノハ、間質内ニ於ケル結核性變化ノ波及セルモノナリ。而シテ、細精管固有膜ハ結核性病變ニハ比較的抵抗強ク、結節ニ隣接セル細精管上皮ノ全ク變性消失スルニ至ルモ、固有膜ハ殘存シテ、細精管内ニ病變ノ波及スルヲ防禦スルガ如キ態度ヲ示スモノナリ。

結節ノ形態ハ他ノ臟器ニ於ケルモノト何等ノ差異ヲ認ムルコト能ハズ。主トシテ類上皮細胞淋巴球、巨態細胞ヨリ成レリ。結節ノ變性シ壞死ニ陥ラントスル傾向ヲ示ス時ハ結節内ニ脂肪ヲ證明スルニ至ル、巨態細胞内ニモ變性セントスル時ニハ脂肪出現ス。又結節ノ壞死ニ陥リ核ノ崩壞像ヲ認ムル部分ニモ砂塵様ニ脂肪ノ出現スルヲ認メラル。

結核性浸潤殊ニ結節内ニ於テハ、間細胞ノ形態ヲ全ク認ムルコト能ハザルモ、結節ノ邊緣部或ハ淋巴球浸潤部ニハ間細胞ノ殘存スルヲ認メ得ベシ。然レドモ間細胞ハ多クハ形態的變化ヲ來シ、正常ノ像ハ認メ難シ。而シテ脂肪染色ニ依ル時ハ是等ノ形態的變化ヲ來セル間細胞ノ核ノ周圍ニ脂肪ノ存スルヲ見ルヲ得ベシ。

六、非結核性副辜丸炎ニ於ケル辜丸一例ト結核性副辜丸炎ニ於ケル辜丸變化ノ比較

坂上氏ハ氏ノ論文中ニ氏ノ實驗例中臨床上ニテハ副辜丸結核ト殆ンド區別シ難キ經過ヲトリ副辜丸結核ナル診斷ノ下ニ辜丸摘出術ヲ施シ、而モ此副辜丸ヲ組織的ニ檢シタルニ毫モ結核性病變ヲ證明シ得ザリシ一例ノ辜丸組織ノ變化ヲ記載セラレタリ。

余モ偶々氏ト同様ナル一例ニ遭遇シ得タルヲ以テ其ノ所見ト結核性ノ場合ニ於ケル所見トヲ比較セントス。

實驗例。姓名不詳。

肉眼の所見。

副辜丸尾部ハ拇指頭大以上ニ腫脹シ、頭部ニハ異常ナシ。剖面ニ於テ結節様ノモノ或ハ乾酪様物質ヲ認めキルモ少量ノ膿ヲ有ス。辜丸ハ形態大キサ尋常、剖面ニ異常ヲ認めズ。

組織的所見。

副辜丸尾部。

副辜丸管ハ管ノ周圍ニ於テ稠密ナル淋巴球、多核白血球「プラスマ細胞」ノ浸潤ヲ蒙リ、副辜丸管上皮ハ退行變性シ管腔内ニ脱落シ、淋巴球、多核白血球ト共ニ滲出物トナリテ存ス。脱落セザルモノモ、上皮間ニ著シキ淋巴球ノ浸潤ヲ蒙リテ退行變性セントシ管ノ健存セルモノ殆ンドナシ。結締織間ニモ多數ノ淋巴球、「プラスマ細胞」ノ浸潤著シク、二三ノ部分ニ於テハ小ナル膿瘍ヲ形成スト雖モ結核性變化ハ何レノ部ニ於テモ認めルコト能ハズ。

辜丸。

辜丸細精管ニ於テハ、精子形成不良ナルモノアルモ大部分ニ於テヨク保有セラレタリ。精子形成ノ認めラザルハ極メテ稀ナリ。精娘、精母、精祖細胞健常ニシテ、セルトリ―氏細胞増殖ナク、固有膜ノ肥厚モナシ。

間細胞ハ増殖シ、多數群團的ニ存在シ、黃褐色色素ヲ有スルモノアリ。間質結締織内ニ於テ限局性ノ輕度ノ淋巴球浸潤アル所アリ。結締織細胞ノ増殖ナシ。

細精管内ノ脂肪ハ少量ニシテ主トシテ固有膜ニ近ク、精母細胞核、セルトリ―氏細胞核ノ周圍ニアリ。間細胞ハ何レモ中等量ノ脂肪ヲ含有ス。

如上ノ所見ヲ以テスレバ、結核性副辜丸炎ノ際ノ辜丸變化ニ比シテ非結核性副辜丸炎ノ際ノ辜丸ノ實質萎縮ノ狀ハ著シク輕度ナルヲ認めラル。而シテ副辜丸結核ニ於ケル辜丸ニ結核性病變ナキ例ニ比シテモ亦著シク輕度ナリ。副辜丸結核ノ際ノ辜丸實驗例中辜丸實質ノ萎縮ノ比較的輕度ナルハ第一、七例ニシテ非結核性ナル此一例ニ比スレバ尙萎縮ノ著シク進行セルヲ認めルコトヲ得。

間細胞ハ、此一例ニアリテハ尋常數ヨリモ増殖シ結核性副睾丸炎ノ際ノ實驗例第一、七例ニ比シテ増殖顯著ナリ。カクノ如キ所見即チ結核性副睾丸炎ノ際ノ睾丸實質ノ萎縮ハ非結核性ノ場合ヨリモ高度ナルコトハ坂上氏モ亦既ニ報告セル所ニシテ、其ノ原因トシテ、氏ハ結核性ノ場合ニ於テハ、其ノ副睾丸結核ノ經過ノ長キコト及ビ患者ハ身體ノ他ノ部分ニ於テモ結核性疾患ヲ有スルコト多キヲ以テ、結核菌及ビ其レニヨル身體消耗ガ間接ノ因ヲナシ、亦同時ニ副睾丸結核竈ニ於テ發生シタル或毒素ガ作用スルモノナラント推測セリ。余モ此事實ニハ此說ニ賛意ヲ表スルモノニシテ余ノ例ハ只一例ノミニシテ斷言ヲ憚ルモ此一例ニ於テ見タルガ如ク睾丸實質ノ萎縮ノ甚ダ輕度ナルニ拘ラズ、間細胞ノ増殖ノ顯著ナルハ結核性副睾丸炎實驗ニ於テハ見ザル所ニシテ注目ニ價スルモノナリト信ズ。

第五章 結 論

一、副睾丸結核十例ノ睾丸ヲ檢索シテ、睾丸ニ結核性病變ヲ認メタルモノ五例、結核性浸潤ナキモノ五例アリ。而シテ睾丸ニ結核性病變ヲ認ムル場合ニ於テハ其ノ傳播系路ハ悉ク淋巴系或ハ血行ヲ介シテ來レルモノナリ。

二、睾丸ニ結核性病變アルトキハ勿論其他副睾丸結核ニヨリテ輸精路ノ通過障礙アルノミニシテ睾丸自己ニ結核性病變ナキ場合ニ於テモ亦睾丸ノ實質ハ萎縮ス。

三、睾丸實質萎縮ノ際、細精管ニ於テハ、精糸ノ形成最初ニ消失シ、余ノ實驗例中精糸形成殘存セルモノ殆ンドナシ。次イデ變性ノ速カナルハ精娘細胞、精母細胞ニシテ、變性ノ初期ニ於テ精娘細胞ハ融合シテ多核巨細胞ヲ形成スルモノアリ。精祖細胞、セルトリ―氏細胞ハ抵抗強ク細精管ノ萎縮高度ナルニ及ビテモヨク殘存ス。然レドモ睾丸組織ニ結核性病變アル場合ニハ結節附近ノ細精管ノ萎縮高度ニシテ、比較的抵抗強キ精祖細胞及ビセルトリ―氏細胞モ亦變性消失ス。

四、細精管上皮細胞ノ變性ニ伴ヒテ、細精管内ニ多量ノ脂肪出現ス。

五、細精管内造精細胞ノ變性シテ其ノ數ヲ減少スルト共ニセルトリー氏細胞ハ明瞭ニ認メラレ、細精管ノ萎縮ノ著シク高度ナラザル場合ニハ反テ増殖スルモノアリ。

六、睾丸組織ニ結核性浸潤アルトキ、細精管固有膜ハ肥厚シ、浸潤ニ對シテ抵抗強ク、細精管内ニ浸潤ノ波及スルヲ防禦シ、細精管ハ例ヘ萎縮スルトモ、結核性浸潤ヲ蒙ラザルヲ常トス。

七、睾丸ニ結核性病變ナキ際ノ睾丸實質萎縮ノ程度ハ副睾丸ノ病變殊ニ副睾丸管腔ノ殘存スルカ廢滅スルカニ深キ關係アリ。

八、副睾丸結核症ノ際ノ睾丸間細胞ノ量ハ一定セズ其ノ増殖スルモノ、尋常ナルモノ、少數ナルモノ等種々アレドモ、結核性浸潤ノナキ部分ニ於テハ概シテ増殖スルモノ多ク時トシテ甚シキ高度ノ増殖ヲ來スコトアリ。反之結核性浸潤部ニ於テハ間細胞ハ消失シ、或ハ殘存スルモ其ノ形態ニ變化ヲ來ス。然ル場合ニ於テモ、其ノ核ノ周圍ニハ脂肪ヲ證明ス。間細胞ノ脂肪ノ量ト細精管萎縮ノ程度及ビ細精管内脂肪量トノ間ニ密接ナル關係ヲ認メ難シ。

九、非結核性副睾丸炎ノ睾丸ヲ組織的ニ檢索シテ、結核性副睾丸炎ノ睾丸變化ト比較スルニ實質ノ萎縮ガ前者ハ後者ニ比シテ著シク輕度ニシテ精子形成尙殘存シ、間細胞ハ實質萎縮ハ輕度ナルニ拘ラズ中等度ニ増殖ス。結核性副睾丸炎ニテ睾丸ニ結核性病變ナキ場合ニテハ、間細胞増殖ハ實質萎縮ニ畧比例シテ行ハルルガ如シト雖モ、睾丸ニ結核性浸潤ノ存スルトキハ此關係ハ保有セラレズ、結核性浸潤ノ高度ナル部ノ間細胞ハ變性消失ス。

十、副睾丸結核ノ際ニ睾丸ニ結核性變化ヲ證明セザル場合ニ於テモ、睾丸間質ニ淋巴球ノ浸潤、水腫ヲ證明スルコト屢々ナリ。

主要文獻

1) C. Hart, Die Lehre von der Pubertät-drüse. Medizinische Klinik 1922. Nr. 25. 26.

2) M. Borst, Pathologische Histologie.

- 3) Caspar, Handbuch der Urologie.
- 4) Kaufmann, Speziellen Pathologie.
- 5) Stöhr, Lehrbuch der Histologie.
- 6) Aschoff, Pathologische Anatomie.
- 7) Ribbert, Lehrbuch der allg. Pathologie u. Pathologischen Anatomie.
- 8) 伊藤斯郎、皮膚科紀要、第六卷、第一號。
- 9) 阪上虎彌太、副睪丸結核ニ於ケル睪丸ノ組織的變化ニ就テ、日本泌尿器病學會雜誌、第十四卷、第二號。
- 10) 大家武夫、日本人睪丸ノ組織的及統計的研究、日本外科學會雜誌、第二十六回、第八號。
- 11) 久保山高敏、大阪醫學會雜誌、第二十三卷、第六號。
- 12) 萩原良一郎、成醫會雜誌、第四八四號。
- 13) 高橋眞美、生殖腺ノ研究、東京醫事新誌、大正十五年三月二十七日。
- 14) 本田蘭、諸種疾病ニ於ケル睪丸ノ病理解剖學的知見補遺、日本微生物學會雜誌、第二十卷。
- 15) 和田龜俊、實驗的「ヒールコレステリネミー」ノ組織的研究、十全會雜誌、第三十一卷、第十一號。
- 16) 中村八太郎、十全會雜誌、第三十卷、第十一號。
- 17) 中村八太郎、日本病理學會會誌、第九卷。
- 18) 森棟賢隆、日本婦人科學會雜誌、第二十三卷。
- 19) 馬淵亨三郎、日本婦人科學會雜誌、第十九卷。
- 20) 桐澤金重、外科學會雜誌、第二十八回、第二號。
- 21) 照野御堂造、日本外科學會雜誌、第二十四回、第六號。
- 22) 田中瑞穂、睪丸内分泌ニ就テ、日本外科學會雜誌、第二十三回、第一號。
- 23) 桐澤金重、日本外科學會雜誌、第二十七回、第十號。
- 24) 土屋直義、セルトリ氏細胞ニ就テ、日本病理學會會誌、第十四年。
- 25) 藤田宗一、睪丸ノ内分泌ニ關スル實驗的研究、日本病理學會會誌、第十四年。
- 26) 堀澤善市、睪丸損傷ニヨル睪丸各細胞ノ變化ニ就テ、日本病理學會會誌、第十四年。
- 27) 福井信立、日新醫學、第十二卷、第十及十一號。
- 28) 山川保城、東京醫學會雜誌、第三十九卷、第五號。
- 29) 深瀬信之、十全會雜誌、第三十一卷、第十二號。